

令和 2 年度 中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】	心身ともに健康で、気力にあふれ、夢に向かって創造力とたくましい実践力を発揮し、新しい時代を拓く知性豊かな児童を育成する。	
【子ども像】	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく考え、自ら学ぶ子 ○ 健康で、粘り強くやり遂げる子 ○ 誠実で、思いやりのある子 ○ きまりを守り、責任を果たす子 ○ 広い心を持ち、文化を大切にする子 	≪ 合言葉 ≫ 【考える】 【やりぬく】 【助け合う】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

○ 「子ども」にとって	わくわくしながら登校し、満足して下校できる学校
○ 「教職員」にとって	自分の力を十分に発揮できる、やりがいのある学校
○ 「保護者」にとって	安心して子どもを通わせられる学校
○ 「地域」にとって	信頼できる開かれた学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 人権を尊重し、心豊かな子どもを育成するために、多様な人々と共働する主体的な活動を取り入れ、よさを認め励まし、基本的な生活習慣の定着を図る心の教育の推進に努める。
(2) 自ら学び、考え、表現する力を育成するために、意欲の向上と深い学びの実現に向けた学習指導の充実に努める。
(3) 健やかでたくましく生きる子どもを育成するために、体力の向上と望ましい食習慣の形成と命を守る安全教育の充実に努める。
(4) 家庭・地域・関係機関と連携した社会に開かれた教育課程を推進するために、地域の人的・物的資源を効果的に活用した、地域とともにある学校づくりに努める。
(5) 教職員が共働・協働の意識を高め、使命感と専門職としての自覚のもと、研修に励み、信頼される職場づくりに努めるとともに、ゆとりを生み出す校務の効率化と勤務時間の適正化を図り、学校組織力の向上に努める。
○(6) 旭地域学校園の教育ビジョンを目指し、地域内の小中学校の情報共有と共通実践を通して、小中連携の一層の充実に努める。
<p>【旭地域学校園教育ビジョン】 「地域に愛される旭っ子」 地域社会の一員としての役割や責任を自覚し、家族や友人、地域の人々への感謝の気持ちを持ち、思いやりをもって接するとともに、ルールやマナーを守るなどの社会性を身に付け、進んで身の回りの人々や地域のために奉仕的に行動できる子どもを育てる。</p>

4 教育課程編成の方針

児童・地域の実態や状況を考慮し、各種法令等、本校教育目標を踏まえ、家庭や地域と連携し、これからの社会を生きていくために必要な資質・能力である「生きる力」を培うことを目指した教育課程の編成に努める。
--

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】	○「大樹のごとく伸びる子」を育むために、学校の組織力を高め、学校・家庭・地域の連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。
【学習指導】	○主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成 ～ 自ら考えを広げ、深めることのできる授業づくり ～
【児童生徒指導】	○基本的な生活習慣を身に付け、集団生活のルール・マナーを守る態度の育成 “あっはっはと笑顔輝く学校に！” ～ あいさつ・「はい」という返事・はきものをそろえる ～
【健康（保健安全・食育）・体力】	○自ら判断し、進んで健康で安全な生活をしようとする児童の育成 ～ 「自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動する児童」 「自分の体に関心をもち、健康で安全な生活ができる児童」をめざして

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
目	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上 ⇒保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>①授業の中で、児童が「知りたい」「解決したい」と思えるような課題の設定や提示の仕方を工夫して、知的好奇心を喚起し、児童の学びに対する主体性を高めます。</p> <p>②落ち着いて話を聞くことができる児童を育てるため、学年に応じた「聞き方」の指導に努めます。</p> <p>③自信をもって自分の考えを伝えたり、友達の前で発表したりできるように、授業の中で、ペアやグループ、全体活動など学習形態を工夫します。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 353 1481 562"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>89.5%</td> <td>92.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.4%</td> <td>96.3%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者すべて目標数値を上回った。話し合いの場を意図的に設定したり、問題 解決的な学習展開をしたりすることで主体的な態度で学習に取り組むことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・児童の興味関心を高める課題設定や、対話的な学びの設定に努めるとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような指導・支援の工夫改善を図る。</p> <p>・学年に応じた「話の聞き方」の指導を引き続き行う。</p> <p>・自信をもって自分の考えを伝えたり、友達の前で発表したりできるように、授業の中で、ペアやグループ、全体活動など学習形態を工夫し、話し合い活動や発表の機会を多く設定する。</p> <p>・友達の発表を認め合える雰囲気を作り、間違ってもいいのだ、大丈夫だという安心感のある学級経営に努める。</p>		R 1	R 2	児童	89.5%	92.4%	教職員	95.7%	100%	保護者	91.4%	96.3%	地域住民		
	R 1	R 2																	
児童	89.5%	92.4%																	
教職員	95.7%	100%																	
保護者	91.4%	96.3%																	
地域住民																			
指す児童の姿	<p>A 2 児童は、思いやりの心を持っている。</p> <p>【数値指標】(A11) 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①異学年活動の充実を図り、高学年児童が自信をもってリーダーシップをとり、望ましい人間関係を構築できるよう支援します。</p> <p>②児童が互いに認め合い、自己肯定感を育てられるよう、「特別の教科 道徳」の充実を図り、認め、励ますなどの声掛けに努めます。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 1366 1481 1574"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>88.5%</td> <td>88.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.6%</td> <td>92.4%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者・地域とも目標数値を上回った。清掃等可能な限り縦割り班活動を実施し個々の関わりが深まった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・実施方法や内容を工夫することで、可能な範囲で異学年の交流活動の機会を継続していくとともに、高学年が主体となって様々な学年の児童が交流できるよう促していく。</p> <p>・「特別の教科道徳」において、自己の生き方を考え、深める学習活動をていねいに積み重ねると共に、日常生活においても互いに認め合い自己肯定感を高められるよう、様々な支援を行う。</p>		R 1	R 2	児童	88.5%	88.6%	教職員	100%	100%	保護者	92.6%	92.4%	地域住民	100%	100%
	R 1	R 2																	
児童	88.5%	88.6%																	
教職員	100%	100%																	
保護者	92.6%	92.4%																	
地域住民	100%	100%																	

<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①「ザウルスキッズ5つのやくそく」の意識化と実践化を図るため、『あはは』（あいさつ・「はい」という返事・はきものをそろえる）に焦点を当てた指導を行い、基本的な生活マナーを守っていこうとする態度の育成に努めます。</p> <p>②安全な登下校のきまりやマナーについて、それぞれの担当場所の問題点について学校全体で情報を共有し、児童への指導に当たります。</p> <p>③月ごとの行事や気候に合わせた生活目標を設定し、帰りの会等で児童自身が振り返りを行うことで、望ましい生活習慣の確立に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>88.0%</td> <td>83.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.0%</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者・地域とも目標数値の80%上回ったが、児童の肯定的回答が昨年度より目標4.3ポイント下回った。多くの児童が新しい生活様式、集団生活のきまりを意識して生活できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・新しい生活様式の中、新しいきまりやマナーを守っている、守ろうとしている児童の姿を積極的に称賛することで、児童一人ひとりが基本的な生活マナーを守っていこうとする意欲を高められるよう支援する。</p> <p>・『ザウルスキッズ5つのやくそく』をより具体化した『あはは』（あいさつ・「はい」という返事・はきものをそろえる）に焦点を当てた指導を全教職員が一丸となり、継続して行う。</p> <p>・廊下・階段の歩行、トイレの使い方など集団生活に必要なきまりやマナーに対する指導内容や掲示物を精選しポイントを絞った指導を行う。また、児童自身が望ましい姿をイメージできるように工夫する。</p>		R 1	R 2	児童	88.0%	83.7%	教職員	95.7%	100%	保護者	92.0%	94.8%	地域住民	100%	100%
	R 1	R 2															
児童	88.0%	83.7%															
教職員	95.7%	100%															
保護者	92.0%	94.8%															
地域住民	100%	100%															
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教職員が率先して明るいあいさつの実践、声掛けに努めます</p> <p>②地域や家庭と連携し、学校内・外でのあいさつの習慣化を図ります。</p> <p>③道徳、学級活動、日々の指導を通してあいさつの種類や時と場に応じたあいさつについて指導していきます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>95.8%</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>91.3%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.5%</td> <td>84.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・学校内でのあいさつは、とてもよくできており、児童・保護者・地域とも目標数値を上回った。児童と教職員は肯定的回答が高かったが、児童と保護者の間に11.5ポイントの差がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・教職員が率先してあいさつや声掛けの実践に努め、児童が自主的にあいさつできる習慣の定着を図る。</p> <p>・児童会主催のあいさつ運動を月1回設定し、方法を工夫する。地域と連携したあいさつの日の取組を児童主体で展開する。</p> <p>・あいさつがよくできている児童を称賛する場を設ける。挨拶の取り組みが実施できた際には、ホームページや学年便り等を活用して児童の姿を発信していく。</p>		R 1	R 2	児童	95.8%	95.6%	教職員	91.3%	100%	保護者	81.5%	84.1%	地域住民	100%	100%
	R 1	R 2															
児童	95.8%	95.6%															
教職員	91.3%	100%															
保護者	81.5%	84.1%															
地域住民	100%	100%															

<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】(A7) 全体アンケートの「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上、 ⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①より高い目標を立て「挑戦する」体験活動や「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」に努力し、最後までやり遂げる活動を設定し、児童が達成感や成就感を味わうことができるように努めます。</p> <p>②「宮っ子心の教育表彰」を活用して学校独自の表彰制度を整えるなど、児童のよさや努力等を積極的に認め、励ます教育に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>90.1%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>80.4%</td> <td>83.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者とも目標数値を上回った。認め励ます指導に努めることで、児童の自己肯定感を高めることができた。職員と保護者との間に16.9ポイントの差がある。家庭との連携協力が必要である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・様々な挑戦の機会を生かし、最後までやり遂げられるよう支援したり称賛や承認の場面を設定したりすることで達成感や成就感を味わわせるようにする。</p> <p>・表彰することに限らず、学級や個人の目標を意識させ、一人一人が目標達成に向け実践継続できる支援に努める。</p>		R1	R2	児童	90.1%	89.6%	教職員	100%	100%	保護者	80.4%	83.1%	地域住民		
	R1	R2															
児童	90.1%	89.6%															
教職員	100%	100%															
保護者	80.4%	83.1%															
地域住民																	
<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防についての指導や様々な危険を想定した避難訓練を実施することを通して、「生活安全」・「交通安全」・「災害安全」に関する教育の充実に努めます。</p> <p>②健康な体作りができるように、運動・食事・睡眠・手洗い・うがいなどの健康的な生活習慣や病気・けがの予防法について指導していきます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>95.8%</td> <td>91.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.7%</td> <td>92.4%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者・地域全てが90%を上回り、目標を達成することができた。日々の体育や持久走記録会の練習について自分の目標に向かい意欲的に活動できた。休み時間の運動については、個人差が見られる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・学校生活の安全ルールを示すとともに、児童の危険回避に対する意識を高める指導にも努める。</p> <p>・業間や昼休みは、外遊びを積極的に推奨する。</p> <p>・引き続き「生活チェック表」や衛生検査等を通して、基本的な生活習慣や衛生面について指導する。</p> <p>・委員会児童による啓発や保健の授業などを通して、新型コロナウイルス対策を中心とした健康的な生活や病気・けがの予防への意識を高める。</p>		R1	R2	児童	95.8%	91.3%	教職員	100%	100%	保護者	93.7%	92.4%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童	95.8%	91.3%															
教職員	100%	100%															
保護者	93.7%	92.4%															
地域住民	100%	100%															

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。

【数値指標】(A5)

全体アンケートの「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上、
⇒保護者の肯定的回答80%以上

・自分自身の将来の夢や目標をもつことができるように、外部講師による「教えて先輩」や「クリーン活動」などの活動を計画実施し、社会に目を向け努力できるよう支援します。

【達成状況】再掲5

	R1	R2
児童	90.1%	89.6%
教職員	100%	100%
保護者	80.4%	83.1%
地域住民		

・認め励ます指導に努めることで、児童の自己肯定感を高め、児童・教職員・保護者とも目標数値を上回った。教職員と保護者との間に16.9ポイントの差がある。児童の頑張りを周知し、連携協力していく必要がある。

【次年度の方針】

・「未来体験」や「教えて先輩」、「地域清掃」などの体験を通し自分自身の将来の夢や目標をもつことができるよう支援する。
・教科学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人に目あてを持たせ、達成のために継続して努力を続けることを指導しその努力を評価・称賛し合い、最後までがんばる心を育てる。
・児童一人一人のがんばりを、保護者に理解してもらえよう、各種たより、ホームページ等で伝えていく。

B

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

全体アンケートの「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上

①児童生徒が、英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるよう、教員が自ら積極的に英語を使うとともに、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を推進します。

②英語のネイティブスピーカーであるALTを、授業はもとより休み時間や放課後などあらゆる時間において活用し、児童生徒が生きた英語に触れる機会の充実を図ります。

【達成状況】

	R1	R2
児童	96.9%	95.1%
教職員	100%	100%
保護者		
地域住民		

・児童・教職員は目標数値の90%を上回った。授業や授業時間外の日常生活においても、ALTと積極的な関わりをもったことで、英語に慣れ親しむことができた。

【次年度の方針】

・引き続き、外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
・児童の英語でのコミュニケーション力を高めるため、教員はALTと授業の目標や活動内容について共通理解を図り、英語で会話する効果的な授業を展開する。
・児童が生きた英語に親しめるように、引き続き昼休みや清掃の時間など授業以外でのALTとのふれあいの機会を多く設定する。

B

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。
 【数値指標】
 全体アンケートの「児童は、宇都宮の良さを知っている。」
 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上

- ①児童が、「宇都宮学」で学んだ歴史や伝統文化、産業などについて知り、郷土への愛情と誇りをもてるような学習を推進します。
- ②「宇都宮学」で学習した内容を、学校だよりや学年だより等で周知することに努めます。

B

【達成状況】

	R1	R2
児童	88.0%	85.3%
教職員	82.6%	91.7%
保護者	77.8%	75.9%
地域住民	/	

・総合的な学習の時間などを活用して、地域の魅力に気づかせる指導に努め、児童・教職員の肯定的割合は80%を超えている。
 コロナ禍で保護者への十分な周知ができず保護者は目標数値に達しなかった。

【次年度の方針】

- ・今後も学年だより等で情報発信に努め児童が積極的に参加するよう働きかけていく。
- ・地域の人材や施設等を生かした見学・体験活動を充実し、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて知り、郷土への愛情と誇りをもてるよう支援する。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。
 【数値指標】(A25)
 全体アンケートの「児童(生徒)は、パソコンや図書等を学習に活用している。」
 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上
 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上、
 ⇒保護者80%以上

- ①これからの社会に求められる情報活用能力を育成するために「情報モラル教育」や「パソコンを活用した授業の実施」「プログラミング教育の推進」等の充実を図ります。
- ②タブレット型パソコンを用いて「学びのコンテンツ」の活用を図ります。
- ③学習における図鑑などの書籍や新聞等の活用を推進し、図書室の学習センター・情報センターとしての機能を充実させます。

A

【達成状況】

	R1	R2
児童	79.1%	91.3%
教職員	87.0%	95.8%
保護者	71.1%	70.8%
地域住民	/	

・児童・教職員は目標数値の85%をそれぞれ上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった。積極的にパソコン室を活用するなど、授業の学習内容に関連付けICT機器や図書等をさらに活用していく必要がある。

【次年度の方針】

- ・「プログラミング教育」を各教科で実施するとともに、来年度導入される一人一台のタブレットをどのように有効活用するか研修を深める等、GIGAスクール構想の推進に努める。
- ・調べ学習等で活用しやすいように、書籍を整理したり、テーマごとに分類した資料を作成したりするなどして、積極的に図書の活用を促進する。
- ・児童がコンピューターなどに親しみ、適切に活用する能力を育成するために、調べ学習や学習のまとめにおいて、積極的にICT機器を活用する。

<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】(A2) 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答80%以上</p>	<p>①高齢者や学校支援ボランティアとの交流、「感謝の会」などを通して思いやりの気持ちなどを育てます。</p>	<p>【達成状況】再掲2</p> <table border="1" data-bbox="1038 147 1481 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>88.5%</td> <td>88.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.6%</td> <td>92.4%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・今年度は地域との交流活動を実施することは難しかったが、児童・保護者・地域とも目標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科や社会科などの学習における学校ボランティアの支援や交流の中で、尊敬や感謝の気持ちを育んでいく。 高齢者との「ふれあい給食」において高齢者が楽しめる催しを考え実践することを通して、いたわりや思いやりの心を育めるよう支援する。 		R1	R2	児童	88.5%	88.6%	教職員	100%	100%	保護者	92.6%	92.4%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童	88.5%	88.6%															
教職員	100%	100%															
保護者	92.6%	92.4%															
地域住民	100%	100%															
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>①国語・社会・総合的な学習の時間等において、環境問題やエネルギー問題、防災等の「持続可能な社会」を見据えた授業の充実を図ります。</p> <p>○②エコキャップ回収や地域クリーン活動、宇都宮市役所景観みどり課と行う「緑いっぱい活動」、教材園活動など、環境に関わる教育活動を展開します。</p> <p>③避難訓練等を通して火災、地震、豪雨のような自然災害に備えることの大切を指導します。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 752 1481 954"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>86.4%</td> <td>86.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>69.6%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員共に80%を上回り目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科領域の中で持続可能な社会についての学習を取り上げ、学年の実態に応じてSDGsについて補足説明し児童に興味をもたせながら理解を深める。 環境保全を目的としたエコキャップ回収やクリーン活動、ゴミの分別などの活動を継続して行いつつ、各教室に『SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる17の目標』を掲示することにより児童および教職員の関心・理解を高める。 		R1	R2	児童	86.4%	86.4%	教職員	69.6%	83.3%	保護者			地域住民		
	R1	R2															
児童	86.4%	86.4%															
教職員	69.6%	83.3%															
保護者																	
地域住民																	
<p>B1 家庭学習の習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、宿題や自主学習に進ん て取り組んで提出している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①家庭と連携して、「家庭学習マイプラン」により、宿題の出し方を工夫し家庭学習の習慣化を推進していきます。</p> <p>②学年の発達段階に合わせた自主学習の方法や内容・量について指導し、継続して取り組めるようにするとともに、手本となる児童のノートを称賛するなど児童の意欲喚起に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 1485 1481 1686"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>69.6%</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>76.9%</td> <td>79.4%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・保護者は目標数値の80%に達しなかった。しかし、昨年度より児童は5.4ポイント、保護者は2.5ポイント上がっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習マイプラン」を工夫改善しながら家庭学習の実施を推奨し、習慣化をさらに図るための指導に努める。 自分の生活時間に合わせた自主学習ができるようやり方や内容など学年に応じて継続して指導する。 「ノート賞」の実施や自主学習ノートの模範例の提示などを行い、児童の自主学習への意欲を高める。 		R1	R2	児童	69.6%	75.0%	教職員	100%	100%	保護者	76.9%	79.4%	地域住民		
	R1	R2															
児童	69.6%	75.0%															
教職員	100%	100%															
保護者	76.9%	79.4%															
地域住民																	

	<p>B 2 児童は、読書習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、読書活動に進んで取り組んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①朝の読書の時間や、学校支援ボランティアによる読み聞かせの定期的な実施により、本に親しむ機会を多く設定し、児童の興味関心を高めます。</p> <p>②チャレンジブックの実施、読書週間でのイベント等を通して、豊かな感性を育む読書活動の推進に努めます。</p> <p>③週に1時間、クラスでの読書の時間を設定できるよう努めたり、週末の「うち読」を勧めたりしていきます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 147 1481 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>68.6%</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>91.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>65.5%</td> <td>64.2%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員は目標数値の90%を上回ったが、児童・保護者は目標数値に達しなかった。児童は昨年度より6.4ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの朝の読書の時間の確保や学校支援ボランティアによる読み聞かせに加え、教職員によるブックトークを実施して児童の興味・関心を高める。 ・国語の単元と関わりのある本を学級文庫に配置し、児童の関心を高める。 ・読書週間のイベントやチャレンジブックの他、お昼の放送を活用して、新刊図書の紹介やお話給食など、児童が主体となった活動を実施して、読書への関心を高める工夫をする。 ・週末の自主学習で「うち読」を進める。 		R 1	R 2	児童	68.6%	75.0%	教職員	100%	91.3%	保護者	65.5%	64.2%	地域住民		
	R 1	R 2																
児童	68.6%	75.0%																
教職員	100%	91.3%																
保護者	65.5%	64.2%																
地域住民																		
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】(A16) 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①日常の観察や相談活動のほか教育相談週間やQ-U検査など、多くの視点から児童理解に努めます。</p> <p>②通常の学級で特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、かがやきルームや特別支援学級、通級指導教室の効果的活用を図るとともに少人数指導やITなど個に応じた指導・支援に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 913 1481 1115"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・特別支援コーディネーターを中心に効果的なチーム援助を行い、教職員の目標数値を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、ケース会議など一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・教職員間で教育的ニーズの情報共有を図り、児童の実態に応じてユニバーサルデザインに基づく授業を実施し、児童の変容に注意しながら、適宜指導・支援に努める。 		R 1	R 2	児童			教職員	100%	100%	保護者			地域住民		
	R 1	R 2																
児童																		
教職員	100%	100%																
保護者																		
地域住民																		

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」

⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上

①児童についての日常の情報交換や観察、教育相談、アンケート調査等とおして、児童の実態把握、いじめの早期発見・早期解決に努めるとともに、「ネットコミュニケーションのマナーやルールの大切さと危険性」について、懇談会等の機会を利用して児童・保護者への啓発に努めます。

②教科や道徳、学級活動の時間に、「いじめ」は絶対に許されないということを、継続指導していきます。

③「いじめゼロ強調月間」を設定し、取り組みの様子を家庭に周知するとともに、全児童が作った標語を教室に掲示するなどして意識付けを図ります。

B

【達成状況】

	R1	R2
児童	98.4%	97.8%
教職員	100%	100%
保護者	84.8%	79.3%
地域住民	93.3%	100%

・いじめゼロ強調月間の取組、いじめゼロ集会等、全校体制でいじめ防止に取り組んできた結果、児童・教職員・地域は目標数値を超えた。しかし、児童・保護者は昨年度よりポイントが下がり、保護者については目標値の90%に達しなかった。今後も「いじめは決して許されないこと」をあらゆる学校教育活動を通して継続して指導する。

【次年度の方針】

・いじめの早期発見・早期解決に向けて、教職員間の情報交換を密に行うとともに、いじめ防止基本方針をもとに、年間を通してアンケートや教育相談を計画的に実施し、事実の把握と迅速かつ継続した指導支援を組織で行う。

・教科や道徳、学級活動の時間の継続指導はもちろん、いじめゼロ強調月間の取り組みのみならずいじめに関する学校の様々な取組を学校ホームページや学年だよりで積極的に知らせるとともに教育相談を実施して得られた情報を活用し保護者との連携を密にし、信頼関係を構築していくよう努める。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

全体アンケートの「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」

⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上

○①「挨拶」「励まし」「称賛」等の、お互いをより身近に感じることができるよう気軽な言葉かけを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面に授業の中に設定したりするなど、すべての児童にとって居がいのある、温かい雰囲気学級経営を行います。

②不登校の兆しを見逃さずに早期対応を確実に行うとともに、教育相談やQ-Uテストを通して児童の悩みや困り感の早期発見に努めます。

B

【達成状況】

	R1	R2
児童	94.8%	97.3%
教職員	100%	100%
保護者	91.8%	86.5%
地域住民		

・学級内で起こったトラブル等は、担任を中心に丁寧な聞き取りに努め、児童・教職員は90%、保護者は85%を超え、目標数値を上回った。しかし、保護者は昨年度から5%低下した。

【次年度の方針】

・児童の様子等について教職員同士や保護者との情報交換を密に行い定期的なアンケートや教育相談の実施、さらにQ-Uテストとその分析などにより、児童の実態把握に努め、児童の悩みを適切にとらえて指導・支援にあたる。

・帰りの会等を利用して児童のがんばりを学級内で共有したり、励まし合ったりすることで温かい雰囲気学級を作る。

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】(A13) 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①外国人児童等、支援が必要な児童に対して、充実した学校生活を送ることができるよう、関係機関と連携し、様々な障害を克服することができる支援体制づくりに努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 147 1481 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の目標数値を大きく上回った。特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に全校で支援が必要な児童に関する必要な共通理解事項が周知されていた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童の実態を把握し、配慮の必要な児童については、打合せ等で教職員の共通理解を図り、適切な支援を行う。 保護者や関係機関と連携し、合理的配慮の提供に努める。 		R1	R2	児童			教職員	100%	100%	保護者			地域住民		
	R1	R2															
児童																	
教職員	100%	100%															
保護者																	
地域住民																	
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上</p>	<p>①児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認めて伸ばす指導に努めます。</p> <p>○②児童会活動や縦割り班活動の充実、学校行事の工夫・改善を通して、児童が主体的に活動する場を多く設定することで、楽しく活気あふれる学校づくりを目指します。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 775 1481 976"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>90.6%</td> <td>92.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>94.4%</td> <td>91.4%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者の数値が少し低下しているものの全て90%を超え目標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休み時間の外遊びを奨励し、より活気のある雰囲気作りをする。 コロナ禍の中でできることを模索しつつ児童会活動・縦割り班活動を充実させ、異学年間の交流を活発にするなど児童にとって「居がい感」のある学校づくりを進める。 		R1	R2	児童	90.6%	92.9%	教職員	100%	100%	保護者	94.4%	91.4%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童	90.6%	92.9%															
教職員	100%	100%															
保護者	94.4%	91.4%															
地域住民	100%	100%															
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①授業の「ねらい」を明確にし、ねらいや目標を達成させるための「手だて」を工夫し、児童が主体的に学びに取り組めるように、指導・支援方法の改善に努めます。</p> <p>②確かな学力を育成するため、少人数指導、習熟度別指導、T・T、かがやきルームでの指導など、個に応じた指導の更なる充実に努めます</p> <p>③朝の活動（パワーアップタイム）の時間に、担任以外の教職員も加わり、複数の指導体制による学習支援を行い、学級・学校全体の学力向上に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 1335 1481 1536"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>97.9%</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82.4%</td> <td>93.9%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の実態に寄り添った指導に努め、すべて目標数値の90%を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科の目標が反映された「ねらい」と「振り返り」の実施や教材や手立てを工夫した授業の実践に努め、分かる授業づくりに取り組んでいく。 学校体制での学習支援や少人数指導、かがやきルームでの指導に加えて、各教室でも児童の理解度に応じた指導が充実するように工夫する。 朝の活動で学習の基礎的基本的な内容の定着が図れるよう指導体制や課題プリントの作成など工夫する。 業務をスリム化しつつ、これまで以上に教材研究の時間や児童と向き合う時間を確保して、児童の状況に応じた指導に努める。 		R1	R2	児童	97.9%	98.9%	教職員	100%	100%	保護者	82.4%	93.9%	地域住民		
	R1	R2															
児童	97.9%	98.9%															
教職員	100%	100%															
保護者	82.4%	93.9%															
地域住民																	

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①様々な職員の専門性を生かし、効果的・効率的に授業や業務が行われるよう連携します。</p> <p>②学校行事や校内研修において、児童についての情報を共有したり、質の高い指導法を学び合ったり、全教職員が一丸となって、児童の指導を充実させます。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 147 1481 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の目標数値を大きく上回った。情報システム、掲示板を活用し情報共有できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も情報共有を密にし、全職員による児童指導に努める。 ・日頃から良好な人間関係作りに努め、各自の専門性や強みを活かした各事業の計画を立て実践してきた。今後も、専門性を有する教職員が、当事者意識をもちながら学校課題解決に向けて連携を図る。 		R 1	R 2	児童			教職員	100%	95.8%	保護者			地域住民		
	R 1	R 2																
児童																		
教職員	100%	95.8%																
保護者																		
地域住民																		
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①働き方を見直すことで、時間を確保し一人一人の児童と向き合い、適切な指導・支援に努めます。</p> <p>②多様な専門性を有する学校スタッフが共同して教材を作成したり、資料収集したりすることで、児童の指導を充実させていきます。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 842 1481 1043"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>91.3%</td> <td>79.2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・コロナ禍による仕事が増え勤務時間を越えることが影響し、教職員の目標数値は5ポイント以上下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化に努め、児童と向き合う時間を確保し適切な指導・支援に努める。 ・各自が担当する業務内容・実施方法を見直し、管理職を含め全教職員で「ノー残業デー」を意識した業務に努める。 		R 1	R 2	児童			教職員	91.3%	79.2%	保護者			地域住民		
	R 1	R 2																
児童																		
教職員	91.3%	79.2%																
保護者																		
地域住民																		
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員・5・6年児童の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①可能な限り小・中学生が交流を図れる活動を、中学校と連携しながら工夫し、地域社会の一員として互いにつながり合って生きていこうとする意識を高めます。</p> <p>②各教科の9年間を見通した年間指導計画の実践や授業力向上のための小中合同研修の推進等により、9年間を見通した学力向上の推進を図ります。</p>	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 1462 1481 1664"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>88.5%</td> <td>69.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.7%</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.5%</td> <td>78.2%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員、保護者共に、コロナ禍の影響により目標数値を大きく下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育が充実し児童にも理解できるよう、小中合同あいさつ運動等の連携事業をとおして、全学年で交流できるように推進する。 ・乗り入れ授業や学校園教職員研修の機会を通して、小中教職員の相互理解や児童生徒理解を進め授業法の工夫・改善を図る。 		R 1	R 2	児童	88.5%	69.4%	教職員	95.7%	95.8%	保護者	85.5%	78.2%	地域住民	100%	100%
	R 1	R 2																
児童	88.5%	69.4%																
教職員	95.7%	95.8%																
保護者	85.5%	78.2%																
地域住民	100%	100%																

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】(A23) 全体アンケートの「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①地域のボランティアや専門家を学校に招き、学年に応じた様々な体験活動を実施するなど地域から学ぶ特色ある教育活動に努めます。</p> <p>②学校・家庭・地域が一体となり児童を育てるために、学校行事、学習、生活指導等において家庭・地域の参加を得た活動を展開・実践します。</p> <p>③学年だよりやホームページで、学校行事や学校の様子、学校の取組を積極的に発信し、理解と協力が得られるようにしていきます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>95.8%</td> <td>90.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>97.7%</td> <td>89.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域コーディネーターと連携し、取組の工夫をし、可能な限りボランティア活動を実施してきた結果、児童・教職員・保護者・地域とも目標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・地域と連携した行事、ボランティア活動について広く知らせ、参加を促すための声かけに努める。</p> <p>・地域連携行事について、学校だよりやホームページで積極的に紹介する。</p>		R1	R2	児童	95.8%	90.8%	教職員	100%	100%	保護者	97.7%	89.1%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童	95.8%	90.8%															
教職員	100%	100%															
保護者	97.7%	89.1%															
地域住民	100%	100%															
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】(A22) 全体アンケートの「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①学校支援ボランティアやコミュニティセンター、オリオン通り商店会などと連携し、学校と保護者、地域が一体となった教育活動を推進し、児童が多くの人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させます。</p> <p>②PTA運営委員会や地域協議会で学校の取組を説明し、学校の現状や課題について理解していただき、改善策を検討して実践していくなど地域・保護者と連携・協力して学校教育活動の充実に努めます。</p>	<p>【達成状況】再掲22</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>95.8%</td> <td>90.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>97.7%</td> <td>89.1%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・PTAや地域協議会に適宜学校の状況や情報を伝え連携・協力することができた。児童・教職員・保護者・地域とも目標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・活動方法を工夫改善し、安心・安全面に配慮しながら、地域の人材・施設を有効活用した教育活動を推進する。</p>		R1	R2	児童	95.8%	90.8%	教職員	100%	100%	保護者	97.7%	89.1%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童	95.8%	90.8%															
教職員	100%	100%															
保護者	97.7%	89.1%															
地域住民	100%	100%															
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①定期的な安全点検を実施し、迅速な修繕・補修による適切な学習環境の整備に努めます。</p> <p>②保護者や学校支援ボランティアと連携を図り、壁面や廊下等を活用して児童の作品を掲示するなど、学習や活動の意欲を高める温かな環境づくりに努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>95.4%</td> <td>89.0%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員、地域住民は100%、保護者回答は85%を超え、目標数値を上回った。日常的に複数の目で学校内を点検することで、危険個所の早期発見及び修繕に努めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き、安全点検や学校支援ボランティアと連携し校内環境整備、学習しやすい環境づくりに努める。</p> <p>・消毒液の設置、点検をし、安心して来校できる雰囲気作りを心がける。</p>		R1	R2	児童			教職員	100%	100%	保護者	95.4%	89.0%	地域住民	100%	100%
	R1	R2															
児童																	
教職員	100%	100%															
保護者	95.4%	89.0%															
地域住民	100%	100%															

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】(A10) 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>①児童の興味を高めたり、理解を深めたりする上で効果的なICT機器や図書等を整え、環境づくりに努めます。</p> <p>②教材・教具の保管場所を見直したり、自主研修や校内研修を行ったりして、有効活用できるようにしていきます。</p> <p>③授業やクラブ活動でパソコン操作の支援ボランティアをお願いし、パソコンの有効活用を図ります。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 147 1481 349"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>79.1%</td> <td>91.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>87.0%</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>71.1%</td> <td>70.8%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員は目標数値の85%をそれぞれ上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台配付されたタブレットとこれまでのICT機器を効果的に関連付けて活用できるように環境を整え、GIGAスクール構想を着実に実施する。 学習内容や活動から必要となる参考図書を選出し図書室や各学級に補充を進めるとともに、市立図書館の資料も積極的に活用し図書の充実を図る。 		R1	R2	児童	79.1%	91.3%	教職員	87.0%	95.8%	保護者	71.1%	70.8%	地域住民		
	R1	R2																
児童	79.1%	91.3%																
教職員	87.0%	95.8%																
保護者	71.1%	70.8%																
地域住民																		
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 「自分・友だち・中央地区」みんな大好き夢いっぱい事業を掲げ、「学び」・「やさしさ」・「生きる力」の育成を図る。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「「考える」「やりぬく」「たすけあう」ザウルスキッズとして縦割り班活動や地域の行事などに一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>○①本校のマスコットである「ザウルス」を活用し、「考える」「やりぬく」「たすけあう」のあいことばを意識させた各種活動の充実に努めます。</p> <p>○②様々な人との関わりの中で、自己を高めることができるよう、体験活動や縦割り班活動、地域行事への参加など可能な限りできる活動の展開に努めます。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1038 1014 1481 1216"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>93.7%</td> <td>94.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.2%</td> <td>94.2%</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答が90%を超え、目標数値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での縦割り活動、地域との連携事業、中央地区や本校にかかわりの深い方々の話を聞く等の事業を通して、児童の自発性や積極性を高め「学ぶ力」「やさしさ」「生きる力」を育てる。 ザウルスキッズとして「考える」「やりぬく」「たすけあう」の合言葉のもと縦割り班活動に取組ませ、異学年との関わりの中で、自己を高めることができるよう努める。 合言葉は十分に定着しているが、行事や日々の生活・学習にも結び付けられるよう声をかける。 		R1	R2	児童	93.7%	94.5%	教職員	100%	100%	保護者	91.2%	94.2%	地域住民	100%	100%
	R1	R2																
児童	93.7%	94.5%																
教職員	100%	100%																
保護者	91.2%	94.2%																
地域住民	100%	100%																

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度の達成状況について、目標が達成できなかった項目は、No.20 の教職員の評価、およびNo.3, 21, B1, B2 の児童の評価、No.9, 10, 14, 18, 21, B1, B2 の保護者の評価であった。4・5月は学校休校となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策対応による業務が増大したり、多くの人が交流する活動が制限されたり、多くの行事や取組を例年通り実施することは難しかった。そのような中でも、教職員が一丸となって柔軟に対応して教育活動の充実を図り、学校の情報・状況を周知して地域や保護者と連携協力し、地域・教職員・児童の多くの項目で目標値を上回った。

1 ≪学校運営≫ 学校の組織力を高め、学校・家庭・地域の連携・協働による特色ある教育活動の展開

コロナ禍で例年通りの教育活動が実施できない状況の中、全職員の共通理解がなされ協力して業務に取り組んできた。その結果、「児童は、だれに対しても、思いやりの心をもって優しく接している」「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」等で、児童・教職員・保護者の目標数値を上回ることができた。残念ながら、コロナ禍により校外行事を含め様々な行事が中止・変更したことが影響し、目標達成に至らなかった項目があった。今後は、コロナ禍での行事等を学校・家庭・地域の連携を密にし、工夫改善しながら、ザウルスキッズの合言葉「考える」「やりぬく」「たすけあう」の実践化を図っていきたい。

2 ≪生活・児童指導≫ 基本的な生活習慣を身に付け、集団生活のルール・マナーを守る態度の育成

コロナ禍のため生活様式が大幅に変わり、児童・教職員共に分からないことが多く、慌ただしく日々を過ごしていた。守らなければいけないこと・守らせなければいけないことが増えたことで、注意される・注意する場面が多くなったことが、児童にとって決まりやマナーを待って生活しているという意識に結びつかなかったとを感じる。できるようになったこと、よい変容を称賛していくことで、児童一人ひとりが決まりやマナーを待って生活していこうとする意欲を高められるよう支援していく。

3 ≪健康・体力≫ 自ら判断し、進んで健康で安全な生活をしようとする児童の育成

消毒液設置等の環境面における新型コロナウイルス感染症予防や、楽しく運動するための様々な取組、外遊びの奨励によって進んで運動に取り組む児童が増えてきたことが健康な生活につながり、「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」について児童・教職員・保護者・地域全てが目標数値を上回った。また、給食の時間には私語を慎み、静かに準備・片付けをしたり食べたりすることができるようになったことも児童の安全な生活への意識の向上につながっている。

しかし、マスクの着用やソーシャルディスタンス、手洗いうがい消毒の徹底といった児童の感染症予防に対する行動・意識の定着については不十分な面も見られた。

引き続き、地域・保護者と連携し、学校と同じ方針で支援してもらえるように健康や体力に関する情報を発信・周知していく方策を工夫改善していく。

4 ≪学習≫ 主体的に取り組む、共に学び合う児童の育成

新型コロナウイルス感染症対策による、前年度の未履修、2か月の休校実施のための授業時数の不足、密になって活動することについての制限など、新学習指導要領完全実施1年目であったが、思うように授業を進めることは難しかった。そのような中に合って、授業時数の確保、授業内容の工夫等、児童の学びに対する主体性を高めるため、授業の中で知的好奇心を喚起し「知りたい」「解決したい」と思えるような課題の設定や提示の仕方を工夫してきた。

評価については「児童は、家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる」「児童は、読書習慣を身に付けている。」「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」については、目標数値を下回った。それらの結果を受け、今後さらに、主体的で充実した活動になるように、分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣を定着させるための工夫改善を行い、一人一人に応じたきめ細やかな指導に努めたい。次年度からのGIGAスクール構想の実施について、授業におけるICT機器や図書等の効果的な活用を図り、主体的に取り組む共に学び合う児童の育成に努めたい。

7 学校関係者評価

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、新学習指導要領完全実施や行事を実施することが難しく、先生方の負担も増えていることが考えられる。そのような中で、すべての調査対象で目標数値に達成できるようにするのはなかなか大変なことだと思う。学習指導や児童指導等、魅力ある学校づくり協議会員として、子供たち、学校のために、地域としても大いに協力・支援していきたい。
- ・授業参観では、子供達が活々と目を輝かせて授業にのぞんでいた。授業内容に応じた工夫がなされていて集中出来ている。コロナ対策も所々に見られ、安全対策に安心感を持った。また、学校内（ろうか・教室の中も含めて）掲示物が整備され、明るく親しみやすい雰囲気の学校になっている。また、学校のホームページもこまめに更新されていて、地域に開かれた学校だと思う。
- ・肯定的回答の割合が低い「読書習慣、ICT 機器の活用、主体的な学習」については、ICTの活用について、保護者の肯定割合が低いが、教員はパソコンや大型テレビ等を活用して児童の興味・関心を引き出しながら授業を行っていた。空き教室の利用や図書室の配置などの環境整備、場・時間の確保などの具体的指導の工夫等の取組を期待したい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

・次年度の取組について、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を念頭に、早い段階から学校のことについて地域協議会で話題にし、学習支援ボランティアの他、学習指導や児童指導等、地域協議会員に可能な範囲での協力についてご相談をしていきたい。状況に応じて、学習支援ボランティア依頼の相談をすることも視野に入れ、今後も、地域の教育力を生かした教育活動の充実や開かれた学校づくりの推進に努める。

・児童が、生き生きと充実した学校生活を送れることを目指し、一人一人の自己肯定感を高められるように、認め・励ます指導や支援を継続していくとともに、児童相互や児童と教職員の良好な人間関係づくりに努めていく。

○「あいさつ」については、まず大人が手本を示し、学校・家庭・地域・地域学校園が連携して元気なあいさつができる児童の育成に努めるとともに、「あいさつ隊」などの児童主体の活動についても工夫しながら、次年度も継続して指導に努める。

・新しい生活様式を含め、児童の生活のきまりやマナーについては、全教職員が、いつ、どこでも、だれにでも同じ指導をできるように取り組むことで、児童が、さらに規範意識をもって生活できるようにしていく。

・いじめ対策においては、「いじめは絶対に許されない行為である」ことを学校全体や学級で指導していくとともに、様々な機会をとらえ、児童への周知、情報収集、情報共有など、いじめ防止に努めていく。また、取り組んだことを、ホームページや学校だより、学年だより等で発信していく。

・「読書習慣、ICT 機器の活用、主体的な学習」、GIGA スクール構想の実践について教職員間で共通理解、工夫改善を図りながら、地域・家庭への協力依頼と周知に努めていきたい。

・「学校からの情報発信」については、学校ホームページの内容の充実と定期的な更新に努めてきた。次年度も地域や保護者と積極的に連携し、学校の取組や児童の頑張りを積極的に発信し、地域と家庭と学校が連携・協力し、児童の健やかな成長に向けて、互いの役割を担っていけるようにしていく。